

# #子育て処方せん

## コロナ下 免疫獲得できず

医学の進歩や新型コロナウイルスの大流行などを受け、小児医療を取り巻く環境は大きく変化しています。「#子育て処方せん」では、日本有数の小児総合病院である福岡市立子ども病院の医師に進化する治療法や病気の症状、予防法をうかがっていきます。初回は、感染症の専門家でもある楠原浩一院長に子どもがかかりやすい感染症について聞きました。

### 感染症

子どもは病原体から体を守る免疫システムが未熟なうえ、保育施設や学校での集団生活の機会が多いため、感染症にかかりやすい。子どもがかかりやすい感染症は、風邪や嘔吐下痢症、手足口病などのウイルス性と、溶連菌感染症や百日ぜきといった細菌性に大別できる。様々な病原体に感染



楠原浩一院長

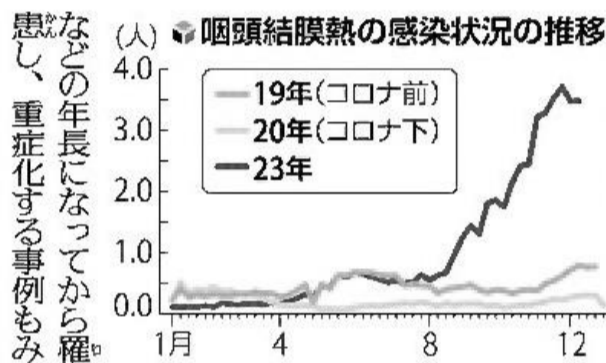
して免疫ができるとかかりにくくなる。

コロナ下では、徹底した予防策や行動制限が取られたため、コロナに限らず感染症にかかるとも少なくない。多くの子どもが免疫を持たないまま成長した。「免疫負債」と呼ばれる。コロナの流行が落ち着き、対策が緩和されると、免疫のない病原体に次々と感染する状況に陥った。

昨年ヘルパンギーナ、アデノウイルスが引き起こす咽頭結膜熱、溶連菌感染症の1定点医療機関あたりの患者数が過去10年で最も多くなった。幼い頃にかからなかった感染症に小学生

- 手足口病**  
手足や口の中に水疱(すいほう)性の発疹が現れる。まれに髄膜炎や脳炎を引き起こす
  - 咽頭結膜熱**  
発熱や食欲不振とともにのどの痛み、目の充血など。アデノウイルスの感染で起こる
  - A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)**  
発熱や全身の倦怠(けんたい)感、のどの痛みのほか、舌に小さな赤い発疹(いちご舌)がみられる
  - ヘルパンギーナ**  
発熱と口の痛み、口の中に水疱ができる。5歳以下がかかりやすい
- ※国立感染症研究所のホームページより

子どもがかかりやすい主な感染症と症状



### 年長で罹患、重症化例も

対処方法は病気により異なるが、ぐったりしている、飲んだり食べたりできない、反応が鈍いといった症状があれば、早めに医療機関を受診する必要があります。意識障害やけいれんなどの症状が表れる細菌性髄膜炎や急性脳炎・脳症は命にかかわるため、特に注意が必要だ。一命をとりとめても、かなりの割合で神経系の後遺症が残る。日本では発熱に伴うけいれんを経験する子どもが少なくない。細菌性髄膜炎や急性脳炎・脳症によるものかを見極めることは難しいが、いずれにしても、けいれんが5分以上続いたり、短くても繰り返して更にその間の意識の戻りが悪かったりする場合は、すぐに救急車を呼んでほしい。

コロナの流行が落ち着いた今、徹底した対策は、子どもたちのコミュニケーションを阻害し、発達に影響を与える恐れがある。基本的な予防策である手洗いに加え、せきが出る時はマスクをする、熱があれば登校・登園を控えるなど、必要に応じた対応を心がけてもらいたい。

ワクチンで防げる感染症も多い。決められた時期になったら、接種を検討してほしい。

(聞き手 遠藤信葉)

### 絵の装飾 不安和らげる

福岡市立子ども病院は、小児・周産期医療に特化した総合医療施設として1980年9月に中央区に開院した。老朽化などで2014年11月、東区のアイランドシティに移転した。現在、27の診療科と、川崎病やアレルギーなど複数の診療科をまたぐ病気を診る9のセンターがある。

病床数は239床。新生児集中治療室(NICU)21床や小児集中治療室(PICU)8床もある。九州各県だけでなく、西日本一円から患者を受け入れており、年間約17万人が受診・入院している。複



子どもが怖がらないように磁気共鳴画像装置(MRI)にはキャラクターの絵をあしらっている(福岡市立子ども病院提供)

雑な先天性心臓病の手術症例数と川崎病の入院患者数は、7年連続で全国1位だ。病院内は近くの小中学校や院内学級の児童生徒が描いた絵をモチーフにした装飾などで彩られ、子どもたちに不安を感じさせない工夫が施されている。高い専門性を持つ看護師や薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師といった医療従事者に加え、病棟保育士や子ども療養支援士ら入院生活の質を高めるスタッフも配置している。

楠原院長は「かかりつけ医で対応が難しかったり、専門的な治療が求められたりする子どもと家族のために、努力を続けたい」と話す。

インタビューの動画はQRコードを読み込んでください



「#子育て処方せん」へのご意見をお寄せください。社会部のメール(s-syakal@yomiuri.com)へお願いします。

日田下録者

医師型ルタ患者